

パンジー

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病害虫名													
秋	作								●	▲			
冬	作									●	▲		
灰	色												
根	腐												
立	枯												
ア	ブ												
ハ	ダ												
	シ												
	ニ												
	類												
	類												

灰色かび病

防除方法

- 1 ハウス栽培では、換気を行い湿度を下げる。
- 2 被害葉や咲き終わった花弁はほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) 1 2
 【花き類・観葉植物(除きんせんか、ホワイトレースフラワー) 1,000倍
 発病前～発病初期／4回】
 - ・ [フルピカフロアブル](#) 9
 【花き類・観葉植物(除ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどう)
 2,000～3,000倍 発病初期／5回】
 - ・ [サンヨール](#) — 【500倍 開花前まで／8回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフェットフロアブル](#) 7
 【花き類・観葉植物(除きく、ゆり、チューリップ、りんどう) 2,000倍
 発病初期／3回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 1 1
 【花き類・観葉植物(除きく、トルコギキョウ) 3,000倍 発病初期／5回】
 - ・ [ゲッター水和剤](#) 1 0 1
 【花き類・観葉植物(除ひまわり、ゼラニウム) 1,000倍 —／5回】
- 5 暖房機ダクトが設置されているハウスでは下記の薬剤を予防的に施用する。
 (Ⅻ省力安全防除 2ダクト内投入 参照)
 - ・ [ボトキラー水和剤](#) B M 2
 【花き類・観葉植物 ダクト内投入 10～15g/10a/日 発病前～発病初期／—】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

根腐病

防除方法

- 1 排水の良好な培土及び栽培管理をする。
- 2 育苗トレイやポットは、残根等がないように洗浄し消毒してから用いる。
(XIV農業用資材の消毒 参照)
- 3 は種床、育苗用土には新しい土を使う。
- 4 被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 育苗期に下記の薬剤をかん注する。

・ [ベンレート水和剤](#) 1

【かん注 2000倍 セルトレイ (60×30cm) 1冊当り500mL 育苗期／2回】

立枯病

防除方法

- 1 排水の良好な培土及び栽培管理をする。
- 2 育苗トレイやポットは、残根等がないように洗浄し消毒してから用いる。
(XIV農業用資材の消毒 参照)
- 3 は種床、育苗用土には新しい土を使う。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ [ユニフォーム粒剤](#) 1 1 4

【花き類・観葉植物 立枯病(リゾクトニア菌) 土壌表面散布 18kg/10a
定植時または生育期／3回】

・ [オーソサイド水和剤80](#) M 4

【花き類・観葉植物(除ばら、りんどう、せんいちこう、コスモス、ひまわり、
シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ)
600倍 -／8回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 定植前に下記の薬剤を培土混和する。

・ [ダントツ粒剤](#) 4 A

【花き類・観葉植物(除きく) 6kg/10aまたは1~2g/株 発生初期／4回】

- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A
【花き類・観葉植物(除きく) 2,000～3,000倍 発生初期／5回】
- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A
【花き類・観葉植物(除はぼたん) 2,000～4,000倍 発生初期／6回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【花き類・観葉植物 4,000倍 発生初期／4回】
- ・ [ジェイエース水溶剤](#) 1 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく) 1,000倍 発生初期／5回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤選択は特に注意する

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [カネマイトフロアブル](#) 2 0 B
【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム)
1,000倍 -／1回】
 - ・ [ダニオーテフロアブル](#) 3 3 【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期／2回】
 - ・ [バロックフロアブル](#) 1 0 B 【花き類・観葉植物 2,000倍 発生初期／1回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3
【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2,000倍 発生初期／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。